えくてびあん

立川と語ろう　立川に生きよう

July 2023
Écoutez Bien Vol.39 No.460

7

最後はやっぱり『源氏物語』

表紙／未来の消防は任しとけ！（多摩川）

立川を食べよう！

eat in Tachikawa

8月号から始まる連載！
えくてびあん久々の飲食店取材です。
美味しいものを毎月ご紹介する企画です。お楽しみに。
（写真は、今までえくてびあんがお訪ねしたお店の中から、ほんの一部です）

『源氏物語』に魅せられて

小学生の時からこの道一本

プリズムのような光源氏を通して
たくさんの個性あふれる女性たちの人生を
読み込んでいく

中西智子さん

――いつ頃から『源氏物語』を？

中西　一番初めに知ったのは小学校低学年の時です。学研の人物漫画シリーズ（『学研まんが人物日本史』）をご存じですか？ その中の『紫式部』とか『春日局』、『卑弥呼』など、女性の偉人みたいなものを親が買ってくれた時に、『紫式部』の本の後半が『源氏物語』の紹介漫画だったんです。

――長いキャリアですね。

中西　学校の図書館に行くと子ども向けに書かれた『源氏物語』があるんです。それを借りては返し、でも読んでもよくわからないんですね。それなのに、また借りる。図書カードには私の名前だけが連なっている（笑）。

――ご両親は本をたくさん買ってくださったんですね。

中西　そうですね。あまり勉強勉強と言う方ではなかったと思います。私は国語だけができて、その力で引っ張られてここまで来ています。

――国語の中でも、なぜ古典なのですか。

中西　古い言葉に興味を持ったのは、幼稚園がカトリックで、お祈りの言葉が当時文語調だったんです。「天にます我らの父よ」「めでたし聖寵充ち満てるマリア」とか。「天にます」ってなんだ？ と子どもながらに思っていて、中学に入って古典の授業を受けて、「天に」「ます」なんだとわかったんです。

――『君が代』の「巌となりて」を、「いわおと（岩音）」「な（鳴）りて」だと思っていました。

中西　母校に非常勤で行ったとき、お祈りの言葉が現代語になっていてびっくりしました。

――大学に入っても『源氏物語』。

中西　そうです。私は大学選びの時点で国文、『源氏物語』しかやるつもりはなくて。

――愚問かもしれませんが、『源氏物語』の魅力ってなんですか。

中西　やっぱりきれいな世界ですよね。言葉もきれいですし、光源氏がいて女の人もたくさんいて。よく「あちこち浮気するんでしょ」と言われるのですが、私の目には光源氏はあまり目立って見えていなくて、光源氏はプリズムのような存在で、そこを通して女の人たちが見えてくる。いろいろな個性を持ったキャラクターが作られていて、その魅力を最大限に発揮させる光源氏は、一種黒子（くろこ）のような存在で、こんなにすてきな女の人がいるんだっていうところが、私には魅力です。

――なかなか原文で読破は難しいのですが、だからと言って現代語訳だと別物になっているような気がします。

中西　角田光代さんなどは、最初は『源氏物語』に対してそこまでの思い入れはなかったとご自身でもはっきりそうおっしゃっていますが、それは珍しくて、例えば瀬戸内寂聴さんなどは「ぱーぷる」という筆名で携帯小説を書いていらしたように、作家の方の訳は、紫式部を介して、やはりその方の作品になっている面があると思います。ですから、現代語訳だけのものよりは研究者の解説がついていて、下に原文が出ているものの方がむしろ、自分のペースで近づきやすいかもしれません。この中野幸一先生の本『正訳源氏物語　本文対照』は、現代語訳と原文の幅を揃えてあるところがすばらしいです。

――ああ、それは見やすそうですね。日本古典文学大系だとずれてしまっていて、わかりにくいんです。

中西　先日、文化庁のトークイベントで截金（きりかね）ガラス作家の山本茜さんと対談をさせていただいたのですが、山本さんもこの幅が合っているのが本当に嬉しいとおっしゃってました。そうした見せ方の工夫がこの本にはあるんです。

――先生はお子さんがいらっしゃいますが、子育てしながらの研究はいかがですか。以前、統数研の坂田綾香先生にお話をうかがったことがあります。やはり子育てしながらの研究活動ですが、坂田先生は「研究職は女性にぴったりな職種」とおっしゃっていました。

中西　子育てをしていると身体が移動できないですね。学会とか出張とか。来年の大河ドラマが紫式部のお話（『光る君へ』）なので、中古文学会が秋にシンポジウムを組んだんです。絶対に私は自分の研究テーマとの繋がり上、出たいし出た方がいいのですが、子どもの運動会と重なってしまったんですね。運動会に行かないことはできるのですが、それをしてしまうと自分の足場が崩れるような気がして、やっぱり学会の方は行かないわけです。もちろんそれは贅沢な幸せな悩みですけれど。

――確かに。

中西　出張や海外の学会であったり、気軽に行けたら今の自分は吸収する時期で、すごく成長できることはわかっていますが、一週間子どもを日本に置いていくことが、コロナもあってなかなか踏ん切りがつきませんでしたね。でも、同時に私は『源氏物語』を読み込むことが仕事に繋がっていくタイプの研究なので、子どもを育てていると読みが深まる、そういうことはあると思います。子どもの出てくる場面の解像度が上がるというか。若紫が走ってきて、眉毛の辺りがほわぁっとなって、髪がなびいて、真っ赤な顔をして…、昔も「かわいいな」と思って読んでいましたけれど、今は「うう、かわいいっ！」って（笑）。

――和泉式部が娘の小式部内侍が孫を置いて亡くなった時、

とどめおきてたれをあはれと思ふらむ
子はまさるらむ子はまさりけり

って詠うじゃないですか。そのくらい娘、自分の子どもが愛おしいっていう気持ちよくわかります。

中西　私の母もそんな風に言いますね。

――それはお母さまがやっぱり娘の方をかわいいと思うからですよ（笑）。

中西　私は『源氏物語』の表現というものを研究テーマにしていますが、『源氏物語』の表現を同時代の女性たちが利用してコミュニケーションの道具にしているんです。特に彰子中宮の下で『源氏物語』は作られましたが、そこに仕えている女房たち、和泉式部や伊勢大輔（いせのたいふ）、赤染衛門（あかぞめえもん）などは、自分の歌の中に『源氏物語』の特徴的な表現を入れてコミュニケーションをとっている。それってどういうことなんだろうって。

――教養の一つですか。

中西　仲良し意識だと思います。合言葉というか。『源氏物語』は、道長が娘の彰子のためにオーダーメイドさせたお話なんですよね。読んでいるのは彰子や妹たちと、そこに仕える、多く見積もっても百人くらいの女房たち。新作が出ると読み、楽しみにしている。その女房たちの合言葉みたいなものではないかと思うんです。

――なるほど。

中西　『源氏物語』は物語自体も面白いのですが、なぜ作られたか、その物語を使って何が行われたのかを考えるともっと面白い。あるいはよく藤原氏の人が作った話なのに、なぜ源氏が主人公なのかと言われますが、誰もそれにうまく答えられない。

――そうですよね。

中西　『枕草子』が明るく楽しい「をかし」の文学なのは、負けている家だからです。清少納言は藤原定子に仕えていましたが、定子は彰子に押されて負けている側なのです。定子のお父さんの道隆と彰子のお父さんの道長は兄弟ですが、道長は「男は妻がらなり」（男は妻の家柄で決まる）と言っていて、自分の正妻にする人を吟味して絶対に下の方の家柄からは選ばない。道隆はこだわらなくて中流階級から正妻を選んでしまった。さらに箔をつけるために道長は娘の彰子に、学者の娘の紫式部を家庭教師として呼んでいる。中国の詩人の白居易の新楽府（しんがふ）を勉強させるために。定子は父親の道隆が亡くなってから不幸が始まっていきます。『源氏物語』は暗い部分があるのですが、それは現実の世界で勝っている道長のところで作られる話だからこそ。また、彰子のお母さんが源氏の出で、道長家ではそこを重視しているがゆえに、源氏を上に置いた話として作られているのではないかと考えるわけです。

――それは先生の説ですか。

中西　私の仮説も入っています。これからそれを検証しようとしています。

――さすがに読み込んでくるとすごいですね！

中西　『源氏物語』は対読者意識が強くて、それは女房の語り口調に表れています。光源氏がやり過ぎたりすると「これは大変けしからぬふるまいですね」とフォローを入れる。イベントで当時、永春文庫副館長でいらした橋本麻里さんとも話していたのですが、それまでの『伊勢物語』とか『宇津保物語』は女性向けに男性が書いていた。『源氏物語』とはやはり違いが出てくると。『ひみつのアッコちゃん』は少女漫画のようでいて、「花の24年組」と言われる萩尾望都、竹宮惠子、大島弓子などが登場して、感覚が女性のものになりました。それまでの男性が描いていた少女漫画ではなくなったんです。それと同じようなより女性の心情にあったお話として『源氏物語』が誕生したのだと思います。

――面白いです。今までの『源氏物語』と違う気がしてきました。ところでお嬢さんも『紫式部』を読んでいるのですか。

中西　どうかな。『卑弥呼』は読んでいました。でも生物とか理科とかの方が好きで、『ざんねんないきもの事典』シリーズは、もうボロボロになるほど読んでいます。

中西智子（さとこ）さん
国文学研究資料館　准教授
東京都出身。東京西部、多摩地域に縁があり、立川には親しみを感じるという。公立小学校から中高は私立の女子校へ。女子ばかりの環境が今の研究に繋がっているらしい。小学生時代から文学まっしぐらに早稲田大学へ進学。大学院生の時に結婚、出産を経て、半子育て、半研究者という生活を続けながら、二〇二二年四月から縁あって国文研へ。休日は四年生のお嬢さんとそれぞれ気に入った本を買ってカフェへ。黙って二人で読みふけるのだそう。なかなかイケてる休日の過ごし方だ。

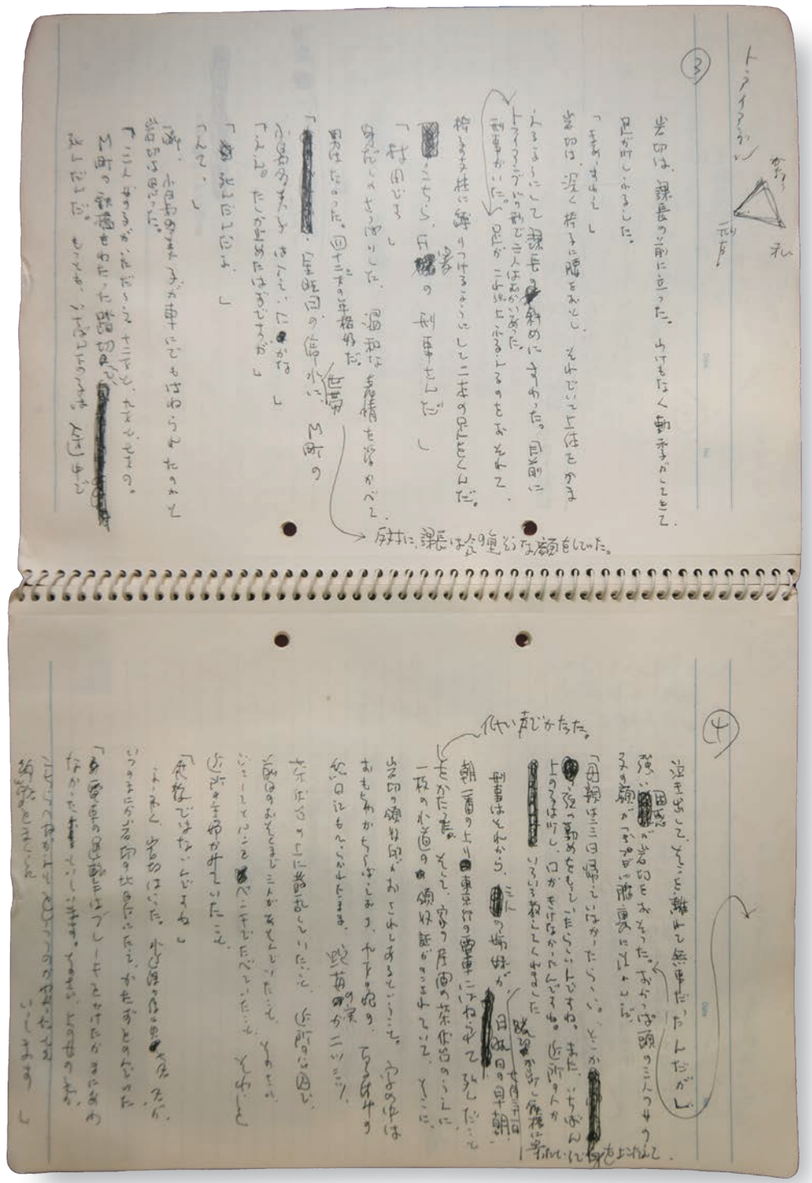
街を歩けば
出会いの輪を広げて

立川が生んだ作家
河林 満

映画『渇水』の原作者

**令和５年６月２日から、
市内の映画館でも『渇水』が上映されている。
原作は河林満氏。立川に縁の深い人とご存じだろうか。
第70回文學界新人賞を受賞し、第103回芥川賞候補となったこの作品が映画化されることをきっかけに、
立川市中央図書館では企画展を開催した。**

河林満氏：この写真は1990年12月にえくてびあん主催のパーティーで撮影したもの。
この日はえくてびあんが毎年開催していた『ベスト立川人・展』のオープニングパーティーだった。マイクを持つ河林さんの隣に掲げられている写真は、同写真展に掲出されたもの。
関連する記事は、えくてびあん1990年12月号と1991年1月号に掲載。



『渇水』下書き

企画展示会場全体の様子

「水」をモチーフにしている作品郡の展示島

歴史小説の原稿　この頃にはワープロで打ち、プリントアウトして修正していた

『渇水』の掲載誌

映画『渇水』のチラシ　主演は生田斗真さん

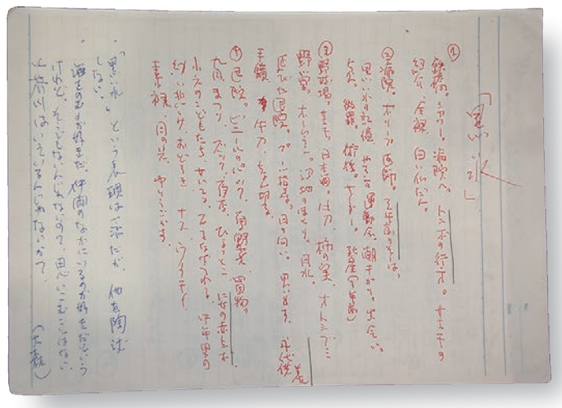
『渇水』シナリオ

『渇水』文庫本

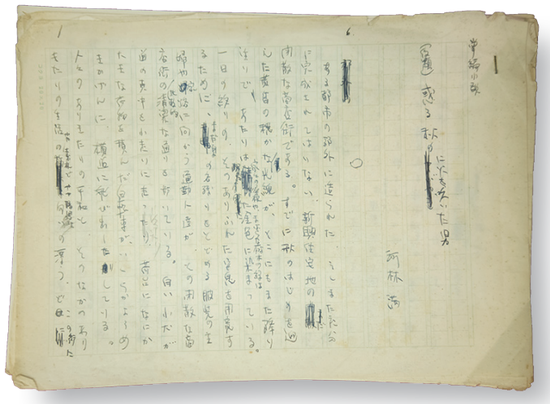
企画展は、河林満氏のプロフィールに始まり、4つの島に分けた展示ケースへと進む。プロフィールには河林氏が福島県いわき市生まれで、父親は「湖底の村」奥多摩町出身であることや、立川市の職員となり水道部業務課、図書館、児童館などに配属されたことが記されている。『渇水』に代表される「『水』を通して『生』と『死』の深淵を見出す作品世界」の島。土葬した母親の遺体を掘り返すと、棺の中に黒い水が溜まっていて髑髏（ドクロ）が浮かんでいたシーンが登場する『黒い水』『海辺の光』、1993年第109回芥川賞候補作品になった『穀雨』などの下書きや構想メモがこの島に並ぶ。別の島には、都立立川高校（定時制）を卒業してからの労働経験が基盤となった「現場労働を通じておりなす作品世界」が広がる。清掃作業員だった経験から着想を得たと思われる『塵芥のさなぎ』があり、また別の島には作者唯一の歴史小説が。「米軍が駐留した基地のまち、立川で生まれた作品」の島に展示されている作品は、立川ならではの感情共有ができるにちがいない。

地震に伴う福島の原発事故を知らずに亡くなったが、未発表の「ヨノモリ」の舞台は福島県富岡町浜通りにある森林地帯「夜（よ）の森」。桜の名所として名高い。そこで描かれるのは生きている人と亡くなった人との交流。窒息しそうなほどの桜花、顕幽2つの世界の交流。映像が目に浮かぶ。

残念ながらプロフィールは2008年1月19日で終わってしまう。警備員の仕事に向かう途中、東京駅で倒れて帰らぬ人となった。まだ57歳だったという。作品とは対照的に、明るく人付き合いのいい、周りを巻き込むタイプだったと、企画展の構成を担当した図書館の古谷（ふるたに）満さんは言っていた。生前の本人を知っている者として、古谷さんは「他の作品も映像になるといいのだが」と。展示期間は6月11日までだったが、いい企画だった。

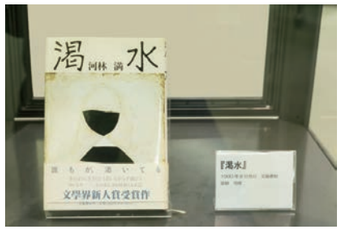


『黒い水』の構想メモ



400字詰め原稿用紙10枚に書かれた短編　感電死する人を描いている

立川で生まれた作品郡



『渇水』初版本

えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。
今月は 栄町・高松町・曙町・羽衣町 のお店です。

栄町
- 手作りパン工房 Bonheur ～ボヌール～ 536-3207
- メンズカット ヤザワ …… 536-8738
- （株）立飛ホールディングス 536-1111
- 大型コインランドリー マンマチャオ栄町店

高松町
- 立飛麦酒醸造所 ……527-1894
- 金田スイミングスクール立川立飛
- ルーデンス食堂
- 米穀・食料品 横町屋 …… 522-2609
- サイクルセンターシバタ…… 522-3888
- セイロン風カリー シギリア 507-2418
- ライブハウス Crazy JAM 529-9507
- 立川湯屋敷 梅の湯 …… 522-3800
- ヘアーサロン イトウ …… 522-6281
- 立川伊勢屋 本店 …… 522-3793
- 大野サイクル …… 523-2061
- 立川キリスト教教会…… 526-6826
- サロン・ケベクア美容室…… 527-4716
- HAIR MAKES たしろ…… 525-2175

曙町
- うなぎ しら澤 ……524-5061
- 久住ハウジング（株）…… 527-8007
- 不動産 大晋商事 ……525-3110
- ヤマハミュージックアベニュー立川 523-1431
- 蕎麦懐石 無庵 …… 524-0512
- TABACCONIST ゼフィルス 524-0514
- あら井鮨総本店…… 522-2957
- 大衆劇場 立川けやき座…… 512-5057
- 立川伊勢屋 ルミネ店 ……524-3395
- 多摩信用金庫 すまいるプラザ立川店 0120-667-646
- オリオン書房 ルミネ立川店 527-2311
- みずほ銀行 立川支店……524-3121
- コスメドール 辰己屋…… 524-6051
- 黒毛和牛専門店 焼肉 FUKI 523-0166
- 宮地楽器 MUSIC JOY 立川北 527-6888
- 三井住友銀行 立川支店……522-2151
- レストラン サヴィニ…… 525-1662
- 立川献血ルーム …… 527-1140
- アートルーム 新紀元 …… 528-6952
- MOTHERS ORIENTAL…528-0855
- 和食どころ 若草茶屋…… 526-0010
- 三上鰹節店 ……522-3259
- ビックカメラ 立川店…… 548-1111
- Charcoal Dining るもん 527-3022
- 酒亭 玉河 ……522-2654
- 玉屋 KITCHEN…… 595-7847
- ホテルエミシア 東京立川 … 525-1121
- カフェ アバン……527-4479
- 手打ちそば しぇ もと …… 529-5468
- シンボパン ……522-6211
- 天ぷら わかやま…… 525-0222
- café cocokara ……512-7159
- 多摩水族館 ……524-0288
- すし 魚正 ……522-3437
- Cut Studio SOFIA …… 528-3241
- 立川市女性総合センター アイム 528-6801
- オリオン書房 ノルテ店 …… 522-1231
- シネマシティ シネマ・ツー 050-6875-3975
- 洋食屋 にゅうとん ……522-3921

羽衣町
- 額縁専門店 プリムベール … 528-6789
- 多摩信用金庫 東立川支店 ‥ 524-0611
- ギリシャレストラン SHUPOUL 519-3923

jorakugajo

真如苑提供番組〈常楽我浄〉

スカパー！：529ch

スカパー！で放送の常楽我浄は
スマホアプリ「スカパー！番組表」（無料）で視聴できます。

J:COM 多摩：11ch・111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題 TOPICS OF TACHIKAWA

三市二署合同水防訓練

5月21日、朝早くから柴崎町の多摩川河川敷において、立川市、昭島市、国立市及び立川消防署、昭島消防署による合同水防訓練が行われました。出水期を前に水害被害の軽減を図るための、水防工法などの習熟を目的とした訓練です。消防署、消防団以外にも、立川消友会、市民防災組織、防災関係機関などが参加、コンパクトでわかりやすい演習でした。

この日、初お目見えは立川救援小隊（通称：トイレカー）。長時間に及ぶ消防活動の後方支援として、東京消防庁では立川消防署に令和5年5月1日より、神田消防署に続き東京都で2台目となるトイレカーを配置しました。これで多摩地域の後方支援体制を補完できるようになります。女性の活躍がこうした後方支援体制の充実にもつながっています。

訓練の様子

通称トイレカー

立川落語会

大喜利の様子　司会は南笑さんと夢子さん。なんと司会も回答できます。

5月13日、アイムホールで『吉例 第82回立川落語会』が、にぎにぎしく開催されました。今回はコロナ明け？ でお客様の入場には、抽選なし、座席制限なし、ご新規様を含むお誘い合わせ良し。マスクは着用していましたが、客席ももとの様子に戻りつつありました。舞台の上はいつもながらに面白く、トリを務める欽七さん、演目は『死神』。会場の照明を落とす演出効果抜群で、自分の命の蠟燭を、緊張と焦りからつぎ足すことができなくて、バッタリ倒れるところまで、臨場感あふれる中でしっかり見せてくれました。次回はまた秋ですね！

立川亭欽七さん。緊張で手が震えて蝋燭のつぎ足しができない！

第12回 立川いったい音楽まつり

5月20日と21日、主に北口サンサンロード周辺で開催された「第12回立川いったい音楽まつり」。主催者のみなさん、スタッフの方々、演奏者の方々もお疲れさまでした。こうしたイベントが開催されていると知らないで来たお客様たちも、足を止めて音楽を聴く。そんなゆったりとしたイベントだったように感じます。演じる人はとても楽しかったと思います。コロナ禍を乗り越えて、こうした発表の場があると勇気も元気ももらえますよね。

二人展『うつわと刺繍』

昨年から1年間、えくてびあんの裏表紙を飾ってくれた「スープカフェなんでもない日」。そこで毎週金曜日だけスタッフとして働いている田村美日（みか）さんと、カフェで毎週お花を生けている大森良子さんが、それぞれの制作物を持ち寄って二人展を開催。題して『うつわと刺繍』。美日さんはずっと続けてきた刺繍作品を、良子さんは若き日ボストンで始めた陶芸作品を、会場であるシネマツー1階に並べます。ご興味がおありの方、ぜひご覧ください。

会期：令和5年6月23日（金）
　　～6月27日（火）
時間：10時～18時
場所：シネマツー1階
　　（サンサンロード沿い）

※6月24日（土）15時から、大森明さん（ジャズサックス奏者）の演奏があります。

大森良子さん

田村美日さん

青木元市長 お元気です

お誕生日の5月28日、青木久元市長が98年の人生を語りました。青木さんが生まれてすぐ、お母様が結核で「ねえや」に預けられて「もらい乳」で育ったことに始まり、幸運が重なって戦争を乗り切ったことなど一気にお話されました。青木さんが強調したかったのは何よりも、立派な組長に仕えたこと、とおっしゃる。具体的には、宮﨑傳左衛門砂川町長、櫻井三男市長、阿部行蔵市長、岸中士良市長。立川砂川の合併、モノレール以外は全部櫻井市長の発想だったこと、区画整理に着手した阿部市長、櫻井市長の発想を具体化し実現した岸中市長のこと。そして元気の秘訣は30代半ばで、お酒とタバコをやめたこと、と。お話は尽きないのですが、これからもどうぞお元気で。

表紙

心はすっかり消防士（水防訓練の現場で）

多摩川河川敷で行われた水防訓練。かわいい消防士さんに出会いました。大きな黒いバックには、キャップや防火ヘルメット、操法管槍、お母さん手作りの垂れのついた防災ヘルメット、背中に背負う酸素ボンベ、キャップライトやゴーグルなどなど、1つひとつ「これは何？」と聞いてしまうほど詰め込まれていました。お父さんが東京に転勤と決まった時、「第八方面本部があるから立川に住みたい」と望んだそうで、お父さんは今、1時間半かけて通勤しているそうです。立川に住みたい理由、こんなところにもあったんですね。4歳の彼、訓練が終わり講評や来賓のご挨拶の間、消防署員や消防団員と同じように、敬礼したり休めの姿勢をとったり、キビキビと動いていました。大好きなんだね～。好きこそものの上手なれ！ 未来に向かって、がんばれ！

かたこと

◆まもなく夏至です。令和5年も半分、まさに歳月不待◆水防訓練で、表紙の少年に遭いました。かわいい姿にメディアのカメラもそちらに向きがち。写真掲載の許可はいただいていますが、ご協力に感謝します◆先月号の表紙に、えくてびあん史上初めて動物を載せました。ある方に「変わろうとしているの？」と聞かれました。そうなんです◆ネットはパーソナライズされています。カスタマイズするからパーソナライズされるとも言えますが、皆さんの見ているスマホの画面は、個々の好みや興味が反映されています。ペット情報やレストラン情報、住宅情報が多い方もいるかもしれません。興味を引く記事が溢れる仕組みです◆紙媒体はそうはいきません。読者は記事を選べません。だからこそ、編集ポリシーに沿って、伝えたいことをどうしたら多くの方に読んでもらえるか、考えるのです。「えくてびあん」とはフランス語で「よく聞いて」。立川の大きな声も小さな声も拾っていくのがえくてびあん◆現在の編集スタッフは3代目。40年前のシニアはシニア。でもシニアでも第2の青春している人が多い今。だからこそのイノベーション。えくてびあんらしさは保ちつつ、こうあるべきという枠を取り払って立川の、広く世界の変化を受け入れていきたい。紙であるからこその弱さを強さに変えて、読者に愛される「地域文化誌」としての矜持を保ち続けたい。一度もクーポンをつけたことはありません。「立川といえばえくてびあん」。どうぞよろしくお願い申し上げます。

えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ©

7月号　第39巻　通巻460号

令和5年7月1日発行
発行　有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082　FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL https://www.tamatebakonet.jp
発行人　黒須 環
企画・写真・編集　えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男（WATER DESIGN ASSOCIATES）
印刷　ダイオーミウラ株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

あの頃の立川　創刊から40年――②

自衛消防審査会

えくてびあんの写真から

1991年に行われた自衛消防審査会 表彰式の写真です。この年、50チームの中から優勝したのは、女子隊が伊勢丹自衛消防隊、男子隊は立飛企業株式会社でした。開催場所は立川飛行機の野球場。当時のえくてびあん掲載記事は伊勢丹の写真ですが、その裏でちゃんと男子隊も撮影してありました。ここに写るお三方、今も立飛ホールディングスにいらっしゃいます。コロナ以降久しぶりに開催された昨年の自衛消防審査会、男子隊の優勝はららぽーと立川立飛（立飛プロパティマネージメント）。伊勢丹女子隊もずっと好成績を収めてこられましたが、残念ながら昨年は欠場。女子隊の優勝は、なんと初出場の立飛ホールディングスでした。続けるというのは強いこと。企業イメージの向上にも一役買う自衛消防審査会、今年もたくさんの出場が期待されます。「打倒！立飛」ですね！

当時の記事では砂川園の出場にも触れていますが、砂川園もずっと出場し続けている素晴らしいチームです。高齢者の福祉施設に自衛消防隊は必須です。立川市役所、陸上自衛隊、真如苑、一如社などなど、強豪チームの多い立川です。えくてびあんは今年もちゃんと取材しますよ。

えくてびあんのバックナンバーは多摩てばこネットでご覧ください。自衛消防審査会の記事は、1991年10月号です。